

地域との交流	ね ら い	久喜の生活を支えている漁業について興味・関心をもつ
--------	-------------	---------------------------

【題材】

海づくり少年団活動 (1)磯観察 (2)漁業体験 (3)新巻鮭作り (4)ホヤの販売

【対象】

(1)全校児童 (2)4～6年生と保護者 (3)6年生と保護者 (4)5・6年生

【復興教育の視点】

- ・久喜の生活を支えている漁業について体験することで興味・関心をもたせること
- ・漁業への思いや海を守ることの大切さを学び、地域や人間の生き方を見つめ直すこと

【実践の概要】

- (1) 磯観察 久喜浜の磯観察
- (2) 漁業体験
 - 4、5年生・・・ウニ獲り ウニの殻むき
 - 6年生・・・定置網漁見学 ウニの殻むき
- (3) 新巻鮭作り・イクラ作り体験
- (4) ホヤ販売体験
 - 「久慈みなと・さかなまつり」での販売体験

磯 観 察



漁 業 体 験



【実践の詳細】

- (1) 磯観察 平成24年6月7日(木)
 - 久喜生産部の方からの磯説明
 - 久喜浜の岩場や潮だまりの観察
- (2) 漁業体験 平成24年7月26日(木)
 - ウニ獲り、ウニの殻むき、定置網見学、会食
 - 支援団体：久喜生産部、屋形定置、久喜女性部、
県北広域振興局水産部、久慈市林業水産課、久慈市漁協、PTA
- (3) 新巻鮭・イクラ作り体験
 - 11月16日(金) 新巻鮭・イクラ作り
 - 11月27日(火) 新巻鮭塩抜き作業
 - 12月11日(火) 新巻鮭完成持ち帰り
- (3) ホヤ販売体験
 - 平成24年7月29日(日)
 - 「久慈みなと・さかなまつり」
 - ・久喜産のホヤの量り売り



新巻鮭作り



【授業の展開】

(1) 磯観察

- ・生産部の方から磯観察の説明や注意をお聞きした後、浜の様子や生き物を観察した。
- ・カニやイソギンチャク・ヒトデ・海藻など、たくさんの生き物を発見し、地域の環境の復興を通して久喜浜は自然の宝庫だということを改めて実感した。

(2) 漁業体験

ア ウニ獲り（4、5年生）…サップ船に乗って箱メガネ、カギを使った体験

イ ウニの殻むき（4～6年生）…久喜魚協女性部の指導による体験

ウ 定置網漁の見学（6年生）…使っている道具や服装についての気づき

- ・久喜の豊かな海への感動を肌で味わった。たくさんの関連団体の協力を受け、コミュニケーションを図りながら、地域の水産業や自然について理解を深めることができた。

(2) 新巻鮭・イクラ作り体験

ア 鮭の一生・鮭の体のつくりについての学習 講師：県北広域振興局水産部

イ 新巻鮭作り・イクラ作り…ぬめり取り、塩の揉込み、マキリやほぐし網の使い方

ウ 鮭の塩抜き作業…小雪が舞う中、冷たい水にもかかわらず、たわしで丁寧に洗った。

(3) ホヤ販売体験

「久慈みなと・さかなまつり」でのお客さんへの販売

ア 販売の表示作りと販売の工夫の確認

イ ホヤ約250kgの量り売り…量る係、接客係等の分担と連携

ウ 久喜産のホヤの良さをアピール…地域のよさ・頑張りを実感



＜児童生徒の感想＞

- ・みんなで食べた刺身などととても美味しかったです。久喜に生まれてよかったと思いました。
- ・漁師さんたちの動きには、無駄がなくとてもかっこよかったです。
- ・保存食として新巻鮭を考えた昔の人の知恵は、すごいです。

＜まとめ＞

五月。震災で船を失った久喜漁港に大漁旗をはためかせて入港する新造船と喜びに沸く地域の方々を目の当たりにし、復興への願いを強く持ちながら活動を進めてきた。

浜の活気ある仕事を体験でき、あらためて家族を支えるために漁に携わる家族に感謝と尊敬の念を抱くことができた。今回、初めてさかな祭りでのホヤ販売を体験してもらい子どもたちは意欲に燃え、楽しく活動することができた。

子どもたちのためにと忙しい中、体験させていただき、大変ありがたいと思う。これらの体験がきっかけとなり次世代の漁業の担い手となってさらに漁業を盛り立ててくれる子が育つことを願う。

第一大協丸進水式での市長さんへのインタビュー



＜保護者・地域の感想＞

- ・久喜でしかできない貴重な体験ができることに感謝です。
- ・子ども達がこれから頑張っていけるように、大人も負けないで頑張っていかなければいけない。

外部団体交渉	ね ら い	交流を通して、日本の文化の再発見と異文化を尊重する心を育てる。
--------	-------------	---------------------------------

【題材】

○日本の文化を発信しよう ～テレビ電話会議～

【対象】

久喜小学校5, 6年生

ニュージーランド・クライストチャーチサウス中学校1, 2年生

【復興教育の視点】

・交流を通して、世界の国々との繋がりを感じとり、国境を越えた仲間意識を育てること

【実践の概要】

(1) 紹介

ア 地域や学校の紹介

(2) 文化の交流

ア クライストチャーチサウス中学校

イ 久喜小学校

(3) 質問・感想



国際対決? あっち向いてホイ!



手遊び歌の紹介



わんこそばの実演



【実践の詳細】

平成24年11月21日 (水) 10:00~11:00

KWNビデオミーティングプログラム

(1) 自分たちの住んでいる地域や学校の紹介(各学校5分)

(2) 文化の交流 (各学校10分)

ア クライストチャーチサウス中学校

・民族の踊り「ハカ」

イ 久喜小学校

・日本文化の紹介

「手遊び歌」…アルプス一万尺

あっち向いてホイ

「手遊び」…お手玉、あやとり、竹トンボ

「クイズ」…漢字クイズ (魚へん)

魚クイズ

「食」…わんこそば (実演)

お弁当紹介

・よさこいソーラン

・定置網漁、海女の紹介

(3) 質問・感想 (各学校5分)

* 互いに通訳の方をはさんでテレビ電話による交流を行った。

【授業の展開】

(1) 事前学習

- ア クライストチャーチについての知識を学ぶ…震災による被災地
- イ おおよその歴史や文化について触れておく。
- ウ 日本の文化について考える。
- エ グループで選んだ日本の文化の中で、何を伝えたいのか内容と方法を具体的に考える。
- オ 映像を使って伝わりやすい方法をグループ毎に考える。
- カ 発表練習を互いに見合い、伝えたいことが伝わるか確認し合って修正をする。

(2) 交流

- ア 映像と音声にややずれがあり、映像を見て相手を見ながら進める。
- イ 文化の交流をするとともに、日本の文化の素晴らしさを再発見する。
 - ・ ニュージーランドで獲れる魚を調べて日本語で紹介したり、震災後も変わらず久喜で獲れている魚を紹介したりした。



(3) まとめ

- ア 発信するときのポイントをまとめる。

<児童生徒の感想>

- ・相手の顔や様子を見ながら交流するのは、さらに楽しい。
- ・外国の人たちと交流できるとは思ってもみなかったので、とてもいい経験になった。
- ・震災というと東日本大震災ばかり思っていたけれど、外国にも同じような悲しい思いをした人がいて頑張っていることを知った。

<まとめ>

とても楽しく交流し、互いの文化を紹介し合うことで理解が深まり、異文化も大事に思う気持ちが育った。特に、自分たちと同じように被災した外国の子ども達との交流とあって、明るく頑張っている姿に感激した子が多かった。また、伝える立場になって、よく知らないことやあやふやなことが分かり、まずは、日本の文化をよく知り理解することや誇りに思うことの大切さを感じることができた。

前もって準備していないフリートークになると恥ずかしくて言えなくなる児童がいた。どんな時も物怖じせずに話ができる児童の育成が必要であると感じた。

よさこいソーランを披露しました。



<保護者・地域の感想>

- ・お手玉の中身や遊び歌を聞かれ、教えながら一緒に遊ぶことができ、息抜きになった。
- ・外国の人とテレビで交流する経験をできるなんて素晴らしい。スタッフのみなさんに感謝します。

ボランティア	ね ら い	廃油石鹼作り・販売を通して地域の一員としての気持ちを育てる
--------	-------------	-------------------------------

【題材】

○私たちにできること～廃油石鹼を作って販売しよう～

【対象】

久喜小学校 6年生

【復興教育の視点】

- ・地域の一員としての意識の向上を図ること

【実践の概要】

- (1) 廃油石鹼作り
- (2) 廃油石鹼販売
- (3) 売上金の寄付

【実践の詳細】

- (1) 廃油石鹼作り
 - ・廃油石鹼作りの目的の共有化
 - ・廃油集め
 - ・型（牛乳パック）集め
 - ・分量、手順の確認
- (2) 廃油石鹼販売
 - ・販売の場の設定
 - ・値段決め
 - ・店作り
 - ・ちらし作成
 - ・メッセージカード作成
 - ・石鹼の包装
 - ・販売の分担
- (3) 売上金の寄付
 - ・売上金の活用についての話し合い
 - ・地域の漁業関係団体へ



廃油石鹼作り



給食センターへ廃油の依頼



【授業の展開】

(1) 廃油石鹸作り

- ア 活動の目的と内容について話し合う…「地域のために自分たちにできること」
- イ 昨年度の6年生に教えてもらったことを確認
- ウ 材料の準備（給食センターへ廃油をいただく依頼電話かけ、型の協力依頼）
- エ 石鹸作り…天候の影響を受けながらの挑戦

(2) 廃油石鹸販売（授業参観日、さかな祭り等 年3回）

- ア メッセージカードの作成（目的・効用・お礼）…心を込めて、名前を添えて
- イ 仕事内容の確認・分担
 - ・店作り
 - ・石鹸の包装
 - ・商品並べ
 - ・値段決め
 - ・チラシ作成、配布
- ウ 廃油石鹸販売…完売に感謝



(3) 売上金の寄付

- ア 地域の漁業関係団体へ全額寄付
 - ・海作り少年団活動他、様々な活動でお世話になっている地域の関係者に、地域の一員としての自分たちの心を届けよう。

※励ましの餅をいただいた小学校に、廃油石鹸とメッセージをお礼の気持ちとして届けた。

<児童生徒の感想>

- ・廃油石鹸のよさを理解し、販売を待っていてくれる人がいる。やりがいがある活動だと思う。
- ・最初は、なかなか売れなかったけれど、宣伝して歩くことを久喜生産部の下公さんに教えてもらったら全部売れて嬉しかったです。
- ・お客さんのことを考えて一つ一つ心を込めて丁寧に作りました。

<まとめ>

昨年の6年生の活動を「自分たちもやりたい」とやる目的と内容を初めにしっかり確認したことが取り組みの意識向上につながった。

子どもがやってるから買ってやろうではなく石鹸のよさで買ってくれることの喜びを味わうことがやる気となった。また、初めて学校以外で販売を行うことで臆せずお客さんとやり取りする大切さを学んだ。

さらに、販売だけでなく、メッセージを添えた一品としてお礼の心を届けることができた。

校内での廃油石鹸販売



<保護者・地域の感想>

- ・石鹸は、とても気に入っているので次の販売を心待ちにしています。
- ・石鹸に込めたメッセージが伝わってくる。

